

## 2 研究の実際

### (1) 新学習指導要領に関わる理論研究

平成 29 年 3 月に幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領が公示されました。『中学校学習指導要領』に数学科の目標は、次のとおりに示されました<sup>(1)</sup>。

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

文部科学省『中学校学習指導要領』 平成 29 年 3 月 p. 65

今回の改訂では、目標及び内容が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理され、これらの数学的に考える資質・能力全体を「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して」育成することを目指すことが柱書に示されています。

また、今回の学習指導要領改訂に先立って、平成 28 年 12 月の『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』においては、現行の学習指導要領等の成果と課題を踏まえ、生徒が新しい時代を切り拓いていくために必要な資質・能力を育むために、改善の方向性が示されました。その中の一つに、「主体的・対話的で深い学び」の実現が挙げられています。これは、生徒が学ぶことの意味を実感しながら、社会との関わりを意識し、切実感をもって他者と対話をしながら問題解決に向かって考えを広げたり深めたりすることを目指したものです。生徒がこれからの予測困難な時代を生き抜くために必要な資質・能力を育むためには、求められている資質・能力を明らかにした上で、数学的活動をより一層充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すことが大切であると考えます。

そこで、本研究委員会では

- ① 育成を目指す資質・能力
- ② 中学校数学科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた生徒の具体的な姿
- ③ 数学的活動

を整理することにしました。

## ① 育成を目指す資質・能力

育成を目指す資質・能力について、『中学校学習指導要領解説数学編』（平成 29 年 7 月）を参考に、次のように整理しました。

## (1) 知識及び技能

- ア 定義 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などについての理解  
事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能
- イ 捉え方 思考力、判断力、表現力等を支えるための重要な要素。理解を伴ったもの。従来の「定着させるもの」から「必要に応じて更新していくもの」へと考えの転換も必要と考えられる。

【知識】○事象を数学化したり、数学的に解釈・表現・処理したりするための知識

○数学的な問題解決に必要な知識

○数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解

【技能】○事象を数理的に捉え、数学を活用して考察するために必要な力の一部

○事象を数学化したり、数学的に解釈・表現したりする技能

## (2) 思考力、判断力、表現力等

- ア 定義 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし  
統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に  
表現する力

- イ 捉え方 問題発見・解決のプロセスを遂行したり、協働的に問題解決したりするために  
必要な能力。獲得した知識や技能を適切に組み合わせて活用しながら問題を解決  
していくことや、伝える相手や状況に応じて表現を工夫することができることと  
考えられる。

○日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察する力

○既習の内容を基にして、数量や図形などの性質を見いだし、統合的・発展的に  
考察する力

## (3) 学びに向かう力、人間性等

- ア 定義 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に  
生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度

- イ 捉え方 獲得してきた資質・能力をどのような方向性で働かせていくかを決定する重要  
な要素。情意や態度等に関わるものも含まれると考えられる。

○数学的に考えることのよさ、数学的に処理することのよさ、数学の実用性など  
を実感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度

○問題解決などにおいて、粘り強く考え、その過程を振り返り、考察を深めたり  
評価・改善したりする態度

○多様な考えを認め、よりよく問題解決する態度

## ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた生徒の具体的な姿

「主体的・対話的で深い学び」は授業改善のための視点であり、特定の指導方法のことではないと言われています。『中学校学習指導要領解説数学編』（平成 29 年 7 月）を基に、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく生徒の具体的な姿を、次のように整理しました。

### (1) 主体的な学び

生徒自らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりする学びを主体的な学びと捉える。

- 問題に向かったとき、既習の知識・技能や気づきを基に問題解決の見通しをもてる。
- 問題解決の見通しを基に、解決に粘り強く取り組むとともに、適宜、振り返りを行うことで、よりよい解決の方法を求めようとする。
- これまでの問題解決の経験から、新たな知識・技能の獲得や問いを見いだそうとしている。

### (2) 対話的な学び

事象を数学的な表現を用いて論理的に説明したり、よりよい考えや事柄の本質について話し合い、よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにする学びを対話的な学びと捉える。

- 既習の知識・技能や気づきを基に、事象を数学的な表現を用いて他者に説明することができる。
- 自身の考えを根拠や理由を用いて他者に説明したり他者の説明を聴いたりすることで、よりよい考えに高めようと話し合うことができる。また事柄の本質を明らかにする話し合いができる。

### (3) 深い学び

数学に関わる事象や、日常生活や社会に関わる事象について、「数学的な見方・考え方」を働かせ、数学的活動を通して、新しい概念を形成したり、よりよい方法を見いだしたりするなど、新たな知識・技能を身に付けてそれらを統合し、思考、態度が変容する学びを深い学びと捉える。

- 「数学的な見方・考え方」を働かせながら、数学的活動を通して新たな知識・技能を身に付けることができる。また身に付けた知識・技能を活用して探究することができる。
- 身に付けた新たな知識・技能を統合することで、自身の思考や学びへの態度の変容が見られる。

③ 数学的活動

数学的活動について、『中学校学習指導要領解説数学編』（平成 29 年 7 月）を基に、次のように整理しました。

- (1) 定義 事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること
- (2) 捉え方 「生徒が目的意識をもって主体的に取り組む数学に関わりのある様々な営み」であった従来の意味をより明確にしたものである。数学的活動は、生徒が主体的に取り組むものであり、その機会を日々の学習において、意図的、計画的に設けることが大切である。特に中学校数学科において重視するものとして、次の三つが挙げられる。

数学的活動	第 1 学年	第 2、3 学年
ア 日常の事象や社会の事象から問題を見だし解決する活動	日常の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動	日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動
イ 数学の事象から問題を見だし解決する活動	数学の事象から問題を見だし解決したり、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする活動	数学の事象から見通しをもって問題を見だし解決したり、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする活動
ウ 数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動	数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し伝え合う活動	数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動

※多くの場合、ウの活動は、指導の過程において、ア、イの活動と相互に関連し一体の活動として行われる。

また、数学科において、数学的活動として捉える問題発見・解決の過程には、主として日常生活や社会の事象に関わる過程と、数学の事象に関わる過程の二つがあり、これらの過程については、図 1 のように学習過程のイメージ図として示されています。

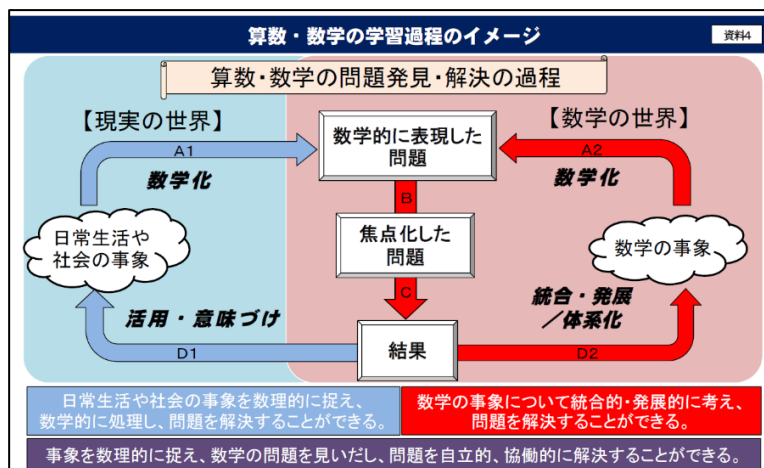


図 1 学習過程のイメージ図 (2)

学習過程のイメージ図については、「数学的活動は、これら二つの過程において、基本的に問題解決の形で遂行される。すなわち、疑問や問いの発生、その定式化による問題設定、問題の理解、解決の計画、実行、検討及び新たな疑問や問い、推測などの発生と問題の定式化と続く」<sup>(3)</sup>とも示されています。そこで、問題発見・解決の過程として、次頁図 2 のように整理しました。

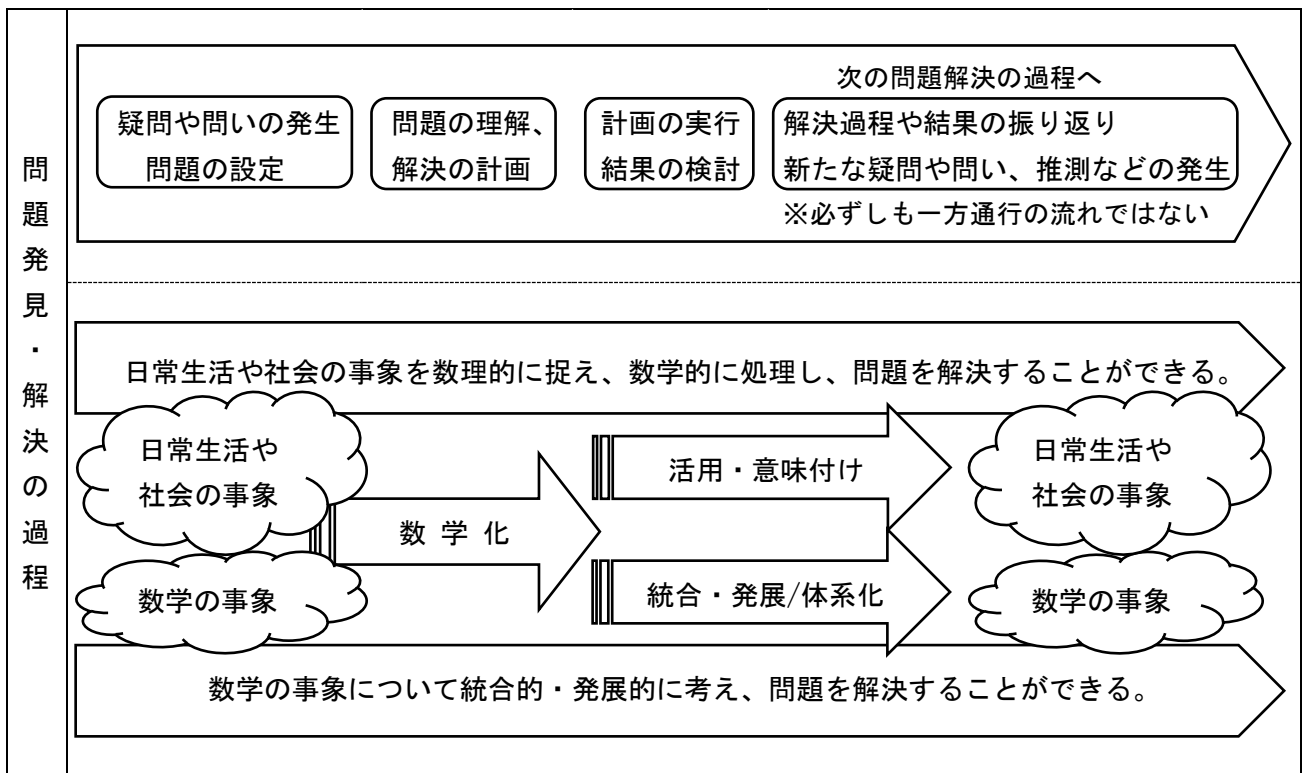


図 2 問題発見・解決の過程

これまでも中学校数学科では、数学的活動をより一層充実させるために、問題解決の過程を重視した指導を行ってきました。

平成 10 年改訂の前学習指導要領から、現行学習指導要領、新学習指導要領まで「数学的活動を通して、子供が自ら課題を見付け、主体的に問題を解決する活動を重視する」という視点が設定されています。また、新学習指導要領と現行学習指導要領の教科の目標と内容の記述において、数学的活動の位置付けに変更はなく、数学的活動の充実を目指すという意味において、新学習指導要領は現行学習指導要領の理念を継承していると言えます。その上で、新学習指導要領では、全ての内容・領域の記述に、「数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する」という表現が用いられており、数学的活動を通じた指導の改善がこれまで以上に強く求められていることが分かります。

数学的活動のより一層の充実に向けて、永田潤一郎は、「新しい教材を開発したり斬新な指導法を希求したりすることが必ず必要なわけではなく、これまでの 20 年近い実践的な蓄積を共有し、各教師が改善を加えて指導の質を高めていく必要がある」<sup>(4)</sup>と述べています。また、『主体的・対話的で深い学び』を実現するためには、誰もが取り上げる内容を数学的活動を充実させて指導することが肝要である<sup>(5)</sup>とも述べており、中学校数学科では、数学的活動を充実させることが、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながると考えます。

佐賀県教育センターでは、『平成22年度「プロジェクト研究」中学校数学科』の研究委員会から数学的活動の充実を通して学習指導の工夫を図る研究が進められてきました。数学的活動の充実を図るための工夫として、1 時間の授業の流れを「つかむ」「見通す」「練り合う」「深める」「まとめる」の 5 つの段階に分けて考え、それぞれの段階と学習内容に応じて、効果的であると考えられる数学的活動（次頁に示す★～オ）を授業の中に位置付け、「授業モデル」として提案しています。「授業モデル」は、佐賀県教育センターの Web ページで発信しています。

⇒ これまでの「授業モデル」<sup>(6)</sup>はこちらから

- ★ 授業で必要となる前時までの学習内容を復習したり、本時の課題を知ったりする活動
- ア 成り立つ事柄を予想する活動
- イ 観察、操作などの具体的な活動
- ウ 自分の考えを人に伝える活動、人の考えを理解する活動
- エ 統合的・発展的に考える活動
- オ 自分が行った活動を振り返る活動

数学的活動を充実させた授業を各学校で実践することで、数学科の教科目標である「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指す」の実現が期待できると考えます。

また、今回の改訂では、「三つの資質・能力が偏りなく育成されるよう、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、数学的活動を通して授業改善を図ること」が配慮事項として挙げられています。そこで、数学的活動（★～オ）を位置付ける際には、1 単位時間の授業の中の位置付けだけでなく、単元を通してバランスよく位置付けることが大切であると考えます。

平成 29 年度の研究において、「授業モデル」に前述の問題発見・解決の過程と学習過程のイメージを位置付け、次頁表 1 のように整理しました。

表 1 問題発見・解決の過程を位置付けた授業モデル

段階	段階の説明	授業に位置付ける 主な数学的活動	問題発見・ 解決の過程	学習過程の イメージ
つかむ	本時の学習に対する関心をもたせ、効果的に課題を提示することによって、学習に対する意欲を喚起する段階	★授業で必要となる前時までの学習内容を復習したり、本時の課題を知ったりする活動	疑問や問いの発生	
見通す	本時の課題の解決方法などを予想させ、この後の学習活動の見通しをもたせる段階	【数学的活動】ア 成り立つ事柄を予想する活動	問題の設定	
練り合う	実際に解決に向けての活動を行わせ、そこで考えたことを話し合うなどして、自分の考えを広げたりまとめたりさせる段階	【数学的活動】イ 観察、操作などの具体的な活動	問題の理解、 解決の計画	
		【数学的活動】ウ 自分の考えを人に伝える活動・人の考えを理解する活動	計画の実行、 結果の検討	
深める	課題の条件を変え、同じことが成り立つかを考えさせたり、新たな数量や図形の法則を見つけ出させたりする段階	【数学的活動】エ 統一的・発展的に考える活動	解決過程や 結果の 振り返り	
まとめる	学んだことを日常生活に戻し、数学の有用性を感じさせたり、本時の学習を振り返らせ、分かったことやできるようになったことを気付かせたりする段階	【数学的活動】オ 自分が行った活動を振り返る活動	新たな疑問や 問い、推測な どの発生	

表 1 の「授業モデル」では、1 単位時間を「つかむ」「見通す」「練り合う」「深める」「まとめる」の 5 つの段階で捉えることができます。また、問題発見・解決の過程では、「疑問や問いの発生」「問題の設定」「問題の理解、解決の計画」「計画の実行、結果の検討」「解決過程や結果の振り返り」「新たな疑問や問い、推測などの発生」の六つの段階に分けて捉えることができます。それぞれは必ずしも一方通行の流れではないため、授業の段階、授業に位置付ける主な数学的活動、問題発見・解決の過程に区切りを設けずにまとめました。その時々に応じて、それぞれの位置付けが上下したり、全て位置付けられなかったりすることもあると考えられます。また、授業に位置付ける五つの数学的活動と問題発見・解決の六つの過程は、1 対 1 の関係にはなっていません。

数学のように系統性の高い教科においては、授業の導入段階において生徒のレディネスを把握することが大切です。そのため、授業を構想する上で大切になる活動として、「★授業で必要となる前時までの学習内容を復習したり、本時の課題を知ったりする活動」を主な数学的活動の一つとして表しています。

前頁表 1 の数学的活動でねらうことと数学的活動を充実させるポイントは、表 2 のとおりです。

表 2 主な数学的活動でねらうこと及び数学的活動を充実させるポイント

主な数学的活動	活動でねらうこと	数学的活動を充実させるポイント
★授業で必要となる前時までの学習内容を復習したり、本時の課題を知ったりする活動	本時の学習に必要な既習内容を効果的に復習させたり、本時の課題と既習内容の関連をつかませたりすることによって、本時の学習をスムーズに進められるようにすること。	<input type="checkbox"/> 興味・関心をもつことができるような課題に取り組ませている。 <input type="checkbox"/> 課題提示の仕方の工夫を行っている。 <input type="checkbox"/> 本時の学習に必要な、これまで学習した内容を復習する時間を設けている。
【数学的活動】ア 成り立つ事柄を予想する活動	既習の学習内容などを基に予想させることを通して、「なぜ?」「確かめてみたい!」という気持ちを抱かせ、どのように課題を解決するのか見通しをもたせること。	<input type="checkbox"/> 課題について分かっていること、分からないこと、何を求めなければならないかを考えさせている。 <input type="checkbox"/> 課題解決の方法や結果を予想させている。 <input type="checkbox"/> 課題を解決するための見通しをもたせ、これまで学習した内容の中から何が利用できるのかを考えさせている。
【数学的活動】イ 観察、操作などの具体的な活動	観察や操作、実験などの活動を通して、数学的な表現や処理の仕方を習得し、予想が正しいかどうかを判断するための方法を見付け出すなど、数学的活動の楽しさを味わわせること。	<input type="checkbox"/> 図形や数量などの性質を、具体的な操作活動を通して見いだすことができるようにしている。 <input type="checkbox"/> 解決に向けて粘り強く取り組ませている。 <input type="checkbox"/> 得られた結果から予想したことが正しいかどうかを判断させている。
【数学的活動】ウ 自分の考えを人に伝える活動・人の考えを理解する活動	自分の考えを人に伝えたり、人の考えを聞いたりする活動を通して、数学的な表現を用いて筋道立てて分かりやすく伝えることや他者の考えと比較して考えさせることで、よりよい方法を探らせること。	<input type="checkbox"/> 自分の考えをもって、説明することができるようにしている。 <input type="checkbox"/> 目的に応じて、言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて説明することができるようにしている。 <input type="checkbox"/> 多様な考えに触れさせ、よりよい方法で課題を解決することができるようにしている。
【数学的活動】エ 統合的・発展的に考える活動	「これまで学習したことと新しく学んだことに共通することはないか」「一つのまとまりとして考えるとどのようなことが言えるだろうか」などのように統合的に考える活動、「ほかに分かることはないか」、「もし・・・でなかったら」、「課題の条件を変えて考えてみるとどうなるだろうか」、「違う法則が見付けられないだろうか」などのように発展的に考える活動を通して、疑問から新たな発見へとつなげていくこと。	<input type="checkbox"/> 課題の条件や場面設定を変えた課題に取り組ませている。 <input type="checkbox"/> これまで学習した内容の考察の範囲を広げて考えさせている。 <input type="checkbox"/> これまで学習した内容と新しく学習した内容を、一つにまとめ合わせて考えさせている。
【数学的活動】オ 自分が行った活動を振り返る活動	自分が行ったことを振り返る活動を通して、具体的な事象に戻って考えさせることにより、数学のよさを知り、自己の能力が変容したことを実感させること。	<input type="checkbox"/> 学習した内容をまとめることができるようにしている。 <input type="checkbox"/> 解決の過程を振り返らせ、数学のよさを実感することができるようにしている。 <input type="checkbox"/> 新たな課題を考えることができるようにしている。



そして、本研究では、それぞれの段階に応じた数学的活動を充実させるための手立てを考え、9～10 頁の表 3 のように整理しました。

表 3 授業の各段階における手立て一覧

段階	授業に位置付ける 主な数学的活動	数学的活動を充実させるための手立て
つかむ	★授業で必要となる前時までの学習内容を復習したり、本時の課題を知ったりする活動	<p>★1 <u>興味・関心をもつことができるような課題に取り組みさせる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>興味・関心を喚起するような日常生活と結び付けた題材を取り扱う。</li> </ul> <p>★2 <u>課題提示の仕方の工夫を行う。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体物やプレゼンテーションソフトを用いるなど、視覚的な提示を心掛ける。</li> <li>「なぜ？」と思わせるような課題提示の工夫を行う。</li> </ul> <p>★3 <u>本時の学習に必要な、これまで学習した内容を復習する時間を設ける。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身に付けさせたい資質・能力を明確にする。</li> <li>本時の学習に必要な既習事項を把握して、復習内容を絞る。</li> </ul>
見通す	【数学的活動】ア 成り立つ事柄を予想する活動	<p>ア1 <u>課題について、分かっていること、分からないこと、何を求めなければならないかを確認させる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題把握のために、分かっていることや分からないことなど必要な情報を整理させる。</li> </ul> <p>ア2 <u>課題解決の方法や結果を予想させる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>直感的に推論させ、およその答えを予想させる。</li> <li>課題を解決する方法を予想させる。</li> </ul> <p>ア3 <u>課題を解決するための見通しをもたせ、これまで学習した内容の中から何が利用できるのかを考えさせる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで学習した内容の中から、何が利用できそうかを予想させる。</li> <li>生徒の気づきや疑問を取り上げ、本時では何ができるようになるか、何をどのように考えればよいのかを明確にして、「めあて」を設定する。</li> </ul>
練り合う	【数学的活動】イ 観察、操作などの具体的な活動	<p>イ1 <u>図形や数量などの性質を、具体的な操作活動を通して見いだすことができるようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観察や操作、実験などの具体的な活動を取り入れる。</li> <li>これまで学習した内容を基に、課題に応じて、帰納的、類推的、演繹的に考えさせる。</li> </ul> <p>イ2 <u>解決に向けて粘り強く取り組ませる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな解決方法を考えさせる。</li> </ul> <p>イ3 <u>得られた結果から予想したことが正しいかどうかを判断させる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動を通して分かったことから、予想したことが正しいかどうかを判断させる。</li> <li>生徒の反応に対して意図的に問い返しを行い、これまで学習した内容と関連付けて考えさせる。</li> </ul>

<p>練 り 合 う</p>	<p>【数学的活動】ウ 自分の考えを人に伝える活動・人の考えを理解する活動</p>	<p><u>ウ1 自分の考えをもって、説明することができるようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをもたせるために、個人で考える時間を取る。</li> <li>話し合う目的や必然性をもたせる。</li> </ul> <p><u>ウ2 目的に応じて、言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて説明することができるようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数学的な表現を用いて説明することができるように、具体例を示す。</li> <li>言葉や数、式などを関連付け、簡潔・明瞭・的確に説明させる。</li> </ul> <p><u>ウ3 多様な考えに触れさせ、よりよい方法で課題を解決することができるようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他者の説明で分かりやすい説明は、自分の説明に書き加えさせる。</li> <li>他者の考えと自分の考えを比較して、同じ考えや違う考えを確認させる。</li> </ul>
<p>深 め る</p>	<p>【数学的活動】エ 統合的・発展的に考える活動</p>	<p><u>エ1 課題の条件や場面設定を変えた課題に取り組ませる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本質を変えずに、課題の条件を変えたり、仮定を変えたりして考えさせる。</li> <li>課題の解決過程や得られた結果を振り返り、ほかに分かることがないかを考えさせる。</li> </ul> <p><u>エ2 これまで学習した内容の考察の範囲を広げて考えさせる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>違う法則を見付けさせる。</li> <li>新たな視点から考えさせる。</li> </ul> <p><u>エ3 これまで学習した内容と新しく学習した内容を、一つにまとめ合わせて考えさせる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>類似した学習内容に対して、共通する性質を考えさせる。</li> <li>これまで学習した内容と新たに学習した内容との共通点を考えさせる。</li> </ul>
<p>ま と め る</p>	<p>【数学的活動】オ 自分が行った活動を振り返る活動</p>	<p><u>オ1 学習した内容をまとめることができるようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まとめの書き方を説明したり、具体例を示したりして書かせる。</li> <li>学習内容のキーワードを使って、生徒一人一人にまとめを書かせる。</li> </ul> <p><u>オ2 解決の過程を振り返らせ、数学のよさを実感することができるようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習した内容が日常生活や社会で役立っていることなどの数学の有用性を実感させる。</li> <li>数学を学ぶ楽しさ、面白さを実感させる。</li> </ul> <p><u>オ3 新たな課題を考えることができるようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容のまとめや振り返りを行い、次の学びにつながる疑問や課題が生まれるようにする。</li> <li>これまでの学習内容を基に、新たな課題を考えさせる。</li> </ul>

《引用文献》

- (1) (2) (3) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説数学編』 平成 29 年 7 月 p. 23、p. 59  
(4) (5) 永田 潤一郎 『教育科学数学教育』 No. 717 2017 年 7 月 明治図書  
(6) 佐賀県教育センター 『平成 27・28 年度「プロジェクト研究」中学校数学科』 平成 29 年 3 月  
[https://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h28/01\\_jugyoukaizen/06\\_tyu\\_suugaku/h27-28\\_proken\\_tyu\\_suugaku\\_toppage.htm](https://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h28/01_jugyoukaizen/06_tyu_suugaku/h27-28_proken_tyu_suugaku_toppage.htm)

《参考文献》

- ・永田 潤一郎編著 『平成 29 年改訂中学校教育課程実践講座数学』 平成 30 年 2 月  
ぎょうせい